

サマーデザインスクール テーマ提案の際の参考資料

2017.4.28 サマーデザインスクール2017 実行委員会

|よりよいテーマワークとするために

●参加者と実施者について

- ✓ サマーデザインスクールには毎年高い満足をいただいておりますが、実施者に比べると参加者の方が満足度が低い傾向が見られました。参加者が少し物足りない部分を感じたのは、学習意欲が満たされなかったことや、自分の力が発揮できなかったことなどが主な要因と考えられます。実施者、参加者の双方が高い満足度を得られるワークになるよう、参加者の立場も考慮してワークを設計されるとよいと考えられます。
- ✓ サマーデザインスクールでは多くの実施者の方にご参加いただき、活発な議論をいただいておりますが、その数が多すぎたり、介入が過剰になったりして、参加者の自発的学習を阻害するケースがあるようです。そのため本年度のテーマ提案書に、実施者チームの一人一人の役割を明確化し、記載いただく欄を新設しましたので、ご協力お願いします。また、上限数を越えての実施者の追加はご遠慮ください。

●デザインの方法やプロセスについて

- ✓ サマーデザインスクールへの参加動機として、実施者は、今後に活かせる成果を得ることを期待する傾向がある一方で、参加者はデザインの理論や手法を体験的に学習することを期待しています。実施者の皆様には、成果に期待しすぎず、教育的側面も重視し、デザインの理論や手法をしっかりと整えていただけると、実施者と参加者の参加動機のギャップを埋めることができると考えられます（理論や手法を提案書に記載するのが難しい場合は、過去の実施事例を参考にしてください）。またそのようなスタンスで望んだテーマの方が、かえってよい成果が得られる傾向もありました。
- ✓ レクチャーやデザイン手法といったワークの構成要素は事前に計画されていても、当日にそのつながりがうまくいかなかったり、時間が足りなくなったりするテーマが見られます。また、3日間という限られた時間ではなるべくシンプルなフローにする方がよい成果、高い満足度を得られる傾向がありました。テーマの難しさなどとも関連しますが、全体の流れを重視し、あまり詰め込みすぎないような計画が有効だと考えられます。

- ✓ インプット（講義やフィールドワークなど）よりもアウトプット（アイデア出しやプロトタイプ作成など）を重視したテーマの方がよい成果が得られ、参加者の満足度も高い傾向がありました。テーマの前提のインプットも大変重要ですが、ワークショップが受け身でなくアクティブな学習の場であることを鑑み、参加者が自発的にアウトプットする時間もしっかりと確保するようにされるとよいかと思われます。

●テーマ設定について

- ✓ 社会的な問題の解決の見地は重要ですが、同時に参加者各自の興味や個性を反映できたり、意外なことに着目したりするテーマは、参加者が興味を持ちやすく、よい成果につながる傾向もありました。個々人の興味や個性、専門性をいかに社会問題の解決につなげるかはデザインの重要なテーマですので、テーマ選びや手法設計の際にご留意いただいてもよいかと存じます。

|当日運営へのご協力のお願い

サマーデザインスクールの規模が拡大する中で、残念ながら昨年度までに以下のような事例が見られ、他の参加者の方々や、会場提供いただいている京都リサーチパーク様にもご迷惑をかけています。

- ・ 使用禁止のスペースを利用する
- ・ 京都リサーチパークの備品をプレゼンテーションに組み込んで利用する
- ・ プレゼンテーション時の過度なアピール（スペースのはみ出し、大きな音を出すなど）
- ・ コーヒーブレイク時にコーヒーを取りだめるなど

節度のある気持ちよいワークショップになるよう、重ねて皆様のご協力をお願いいたします。テーマ提案書の作成や事前準備に際しても、当日に上記のような無理をすることにならないよう、ご計画ください。スペースやプレゼンテーションに関してはレギュレーションを実行委員会にて検討しておりますので、追ってお知らせいたします。